

自民、鳥取2議席死守

鳥取選挙区開票結果

1区 (31日午前1時21分、選管最終)

当118,121票	石破茂	52	自前
63,383票	奥田保明	49	民新
7,336票	岩永尚之	52	共新
1,757票	細川幸宏	40	諸新

2区 (30日午後10時58分、選管最終)

当84,659票	赤沢亮正	48	自前
84,033票	湯原俊二	46	民新
2,082票	甲谷英生	33	諸新

2区 当選者 1区



赤沢亮正(自民前 豊公明)



石破茂(自民前 豊公明)

党広報局長。1984年に旧運輸省(現国土交通省)入省。国土交通省官房総務課企画官など歴任。2004年に旧日本郵政公社へ出向し、海外事業部長。05年衆院選で初当選。東京大法学部卒。米子市日ノ出町1丁目。当選2回。

農相。銀行員を経て、1986年の衆院選で初当選。農林水産省政務次官、防衛総括政務次官、防衛庁副長官、同長官、防衛相などを歴任し、2008年9月から現職。前自民党鳥取県連会長。慶応大法学部卒。鳥取市上町。当選8回。



花束を掲げて再選を喜ぶ赤沢亮正氏(中央)＝30日午後11時10分、米子市加茂町1丁目、事務所裏の駐車場

2区

赤沢氏接戦制す

湯原氏に626票差

再選を目指す自民党の赤沢亮正氏(中央)は、追二氏との事実上の一騎打ち。沢正氏が組織をフル稼働し、追い風に乗る民進党の湯原俊二氏を制した。

「政権選択」が最大の焦点となった第45回衆院選は30日投票され、鳥取県では1、2区とも自民党が議席を死守した。1区は自民党前職の石破茂氏(公明党推薦)が、民主党新人の奥田保明氏(国民新党推薦)、共産党新人の岩永尚之氏(諸派)(幸福実現党 新人の細川幸宏氏を抑えて8選。2区は自民党前職の赤沢亮正氏(公明党推薦)が、民主党新人

の湯原俊二氏(国民新党推薦)、諸派(幸福実現党)新人の甲谷英生氏を破り、再選を果たした。自民党は全国で大敗する中、鳥取での議席を独占。民進党は追い風を生かす切れなかった。投票率は75・30%で、前回選を2・44%上回った。

1区

石破氏逆風払い圧勝 過去最高11万8000票台

現職農相の石破茂氏が、強固な組織力と、高い知名度を生かして自民党への逆風を払い、民主党に代わって元秘書の奥田保明氏ら新人3氏の挑戦を退けた。

前回衆院選を1万票以上上回り、1996年に小選挙区比例代表並立制が導入されて以降、最高だった2003年の前回得票数を更新した。

石破氏は、党が優勢に立たされる中で、自分が党を「立て直す」と、党再生に向けたリーダーシップを前面に出した。党支持層の離反を食い止めることも、昨年9月の党総裁選に出馬して知名度を上げたことで、無党派層からの支持も集めた。

選挙戦は他候補の応援のたもとで、期間の半分は選挙区を駆け回り、7月の県、市町村単位の集会を積み重ねた。

とりわけ、手の内を知られた奥田氏に、自民党支持の層が切り崩されることを警戒。奥田氏の集会を積み重ねた。

奥田氏は公示後、「政権交代」を掲げて、無党派層への支持拡大に全力を挙げたが、知名度のある石破氏を脅かすには至らなかった。

農林部や企業を中心に旧知の自民党支持層を回り、保守王国の切り崩しを狙った。一部の支持者の取り込みは成功したものの、その広がりには限定的で、石破氏の厚い壁に阻まれた。

さらに、無党派層の多い市街地での活動が後手に回った上に、民進党支持層や自民党批判層への浸透が不足し、党への追い風に乗り遅れたことが、最後まで響いた。

共産党の岩永尚之氏は、石破、奥田両氏の対決の陰に隠れ、存在感を発揮できなかった。候補擁立を見送った鳥取2区にも足を延ばし、比例中国での議席獲得を目指した。その影響もあって、大票田の鳥取市街地で苦戦し、引き離された。諸派の細川幸宏氏は、大差を取った。

選挙戦では農林水産委員(出身の国土交通省)のバイを務めた。期目の実績や、「プ」など、候補者個人を前面に出した戦術を展開。自民党への支持をためらう保守層の流出に歯止めをかけた。個人演説会もきめ細かく開催して、確実な浸透に腐心した。

保守分裂だった前回選とは打って変わり、自民党系列の地方議員は赤沢氏で一本化。特に会派分裂を解消した県議たちが選対に加わり、組織力は強化された。党支部や後援会、若手経済人の支援団体など組織をフル活用。党への逆風もあって序盤はリードを許したが、落選の危機感が組織に浸透したことで逆に動きが

活発化。推薦を受ける公明党も組織票で後押しした。応援弁士が呼びにくい無党派のハンディは、抜群の知名度を誇る鳥取1区、石破茂氏がフォロワー。再三、2区に入って街頭演説を繰り返して、保守層から無党派層まで幅広い層にアピールした。

湯原氏は党への追い風をつかみ切れず終盤、組織の底力を見せた赤沢氏に屈した。小泉構造改革路線がもたらした地方の疲弊ぶりを訴え、党の公約を前面に押し出したが、「政権交代」を訴えたが、地方議員として浸透したことで逆に動きが

培った自らの主張などを封印したことで逆に存在感が示し切れず、支持が伸び悩んだ。加えて日米の自由貿易協定などマニフェスト(政権公約)に対する逆風から農業票が離れるなど、保守層の取り込みも不十分だった。

連合鳥取や保守層にまたがる川上義博党県連代表の後援会を軸に組織も動いたが、活動には一体感が欠けた。

諸派の甲谷英生氏は米子市を中心に無党派層の取り込みを狙ったが、浸透しなかった。

鳥根

1区 細田氏 2区 竹下氏

鳥根1、2区は自民党が議席を死守した。1区は、自民党前職の細田博之氏(公明党推薦)が、国民新党の推薦、社民党の支援を受けた民主党新人の小室寿明氏、共産党新人の石飛育久氏、諸派(幸福実現党)新人の池田健一郎氏、自民党新人の竹下巨(公明党推薦)が、その結果、地盤の出雲、雲南両市などでリードを保ち、追いすがる亀井氏を約2万7千票差で下した。

一方、竹下氏は長年培ってきた組織力を生かし、徹底した「どぶ板選挙」を展開。衆院解散前後からは、後援会もほば張り付いて組織を引き締め、自民党王国のほころびを、最小限に食い止めた。

国民新党前職(比例中国)の亀井久興氏(民進、社民)の相浦慎治氏を破

鳥根選挙区開票結果

1区 (30日午後11時38分、選管最終)

当122,595票	細田博之	65	自前
80,789票	小室寿明	48	民新
8,923票	石飛育久	31	共新
2,060票	池田健一郎	29	諸新

2区 (30日午後11時34分、選管最終)

当135,296票	竹下巨	62	自前
108,192票	亀井久興	69	国前
2,925票	相浦慎治	41	諸新

細田博之(自民前 豊公明)



党幹事長。1967年、旧通産省(現経済産業省)に入省。退職後、父の故郷鳥取県倉吉市で運輸相の秘書を経て、90年に衆院選。旧鳥根全県区で初当選。内閣官房長官、沖繩・北方対策科学技術担当相を歴任。東京大学法学部卒。松江市望形町。当選7回。

竹下巨(自民前 豊公明)



財務副大臣。1969年にNHKに入り、経済ニュースキャスターなどを経て、85年に退社。兄の故郷竹下登元首相の秘書を務めた後、2000年の衆院選で初当選。慶応大経済学部卒。雲南市掛合町出身。東京大学法学部卒。当選4回。

湯原氏(2区)小室氏(1区)が復活当選(1面参照)

テレビ欄は12面